

- 1 日時 令和7年11月〇日（〇） 第〇校時
- 2 学年 第4学年〇組
- 3 単元名 「ゴーゴー☆防災」【防災で地域とつながる】
- 4 単元について

#### 目標

2014年8月20日に広島市安佐南区で起きた「8.20土砂災害」をきっかけに、地域の防災・減災を探究的に学習する過程を通して、防災・減災は地域の人々のつながりに支えられていることに気づき、命や身を守るために自分たちに何ができるかを考え、地域の一員として〇〇の町に愛着と誇りをもち、自分にできることを実践できるようにする。

#### 目指す子供の姿

- 〇 地域の防災活動に携わる人たちの思いや願いを知り、防災・減災は地域の人々のつながりに支えられていることに気付いている。
- 〇 自分と地域の防災との関わり方について、自分たちにできることを考えて必要な情報を集め、課題に応じた根拠を基に整理分析し、よりよい表現方法でまとめている。
- 〇 地域の一員として〇〇の町に愛着と誇りをもち、〇〇の地域のつながりを深めるために自分ができることを考え、実践しようとしている。

#### 現在の子供の姿

昨年度末に当時の4年生「〇〇キッズ防災士71」から、防災フェスティバルで防災についての発表を聞いた子供たちは、4年生になったら自分たちも防災の学習をしたいという意欲をもって進級した。そして、今年度、自分たちも防災について学び、〇〇の防災意識を高めるために「〇〇キッズ防災士55」を結成した。

小単元1では、「〇〇の8.20」「広島市豪雨災害伝承館」「絆花壇」「防災マップ」「避難リュック」について学習したことを新聞にまとめ、全校児童と地域の方に向けて発表した。3回の発表でのべ300人を超える来場があり、「他の学校ではやってない自慢できる活動だ」と自信をもち、自分たちの活動に手応えを感じている。

小単元2では、自主防災会と共助の力を高めるために、備蓄倉庫見学、防災工作、土のう袋体験、避難所体験、防災マップ町歩きなどの活動に取り組んできた。自主防災会と週に1回程度、繰り返し継続して関わることで、自主防災会を身近に感じ、自分たちも自主防災会とともに地域の一員としてできることをしていきたいという意識の高まりにつながってきている。

#### 単元の価値

〇〇小学校区は、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）があり、「8.20土砂災害」では、かろうじて人命に関わる被害はなかったものの、家屋や田んぼに土砂が流れこむ被害があり、実際に避難が遅れば命に関わるような被害もありえた。〇〇小学校は災害時の指定緊急避難場所に指定されているが、山側に面した体育館と西校舎は土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されているため、山側ではない東校舎が避難場所となっている。そのため、土砂災害を想定した学校の避難訓練でも、体育館に避難するのではなく、山側ではない東校舎への水平及び垂直避難を実施している。そのような地域性から、防災について学ぶことは地域が抱える課題について、児童が主体的に考え、地域とのつながりを実感しながら、地域の一員として自分たちができることを実践していこうとする態度を育むことにつながると考える。

## 働きかけ・環境設定

広島市豪雨災害伝承館で、CG映像や被災体験談を見聞きしたり、実際に砂防堰堤（えんてい）を間近に見学したりすることを通して、土砂災害のおそろしさや災害に備える必要性を切迫感をもって感じられるようにする。そして、「〇〇の8.20」を知るために、地域の方から当時の話を聞くとともに、〇〇の町を実際に歩き、被災現場や危険な場所、避難所を自分の目で見て確かめることによって、災害を身近に起こりうるものとして切実感をもって捉えられるようにする。また、「8.20土砂災害」の犠牲者を追悼し、後世に災害の記憶を継承するために、安佐南区内の小学校と地域や企業が協力して、夏の被災地をマリーゴールドの花でいっぱいにする「絆花壇」の取組を校内においても継続することで、防災・減災の意識をもち続けられるようにする。

自主防災会の方の氏名と地域が分かる「つながりマップ」を作成し、その都度関わりのあった方を確認することで、つながりを身近なものとして捉えられるようにする。さらに、自主防災会と学習した内容をオクリンプラスを活用した「つながろうカード」に書きためていくことで、共助の力を高める活動を積み重ねているという達成感と地域の防災意識を高めるために役立っているという有用感につなげられるようにする。また、朝の時間を活用した「伝えあいタイム」によって、「あいづち言葉」「つなげる言葉」「引き出す言葉」「ふりかえりマスター」など、対話に必要な要素を楽しみながら身に付けていくとともに、自分の考えをもち（自分力）、仲間と考えを伝え合う（チーム力）よさを実感できるようにしていく。整理分析の場面では、タブレットの共有機能を生かして、比較・分類したり、多面的・多角的に見たりする場面を設定することで、協働的・対話的に学習することのよさを実感できるようにしていく。

## つながる学び

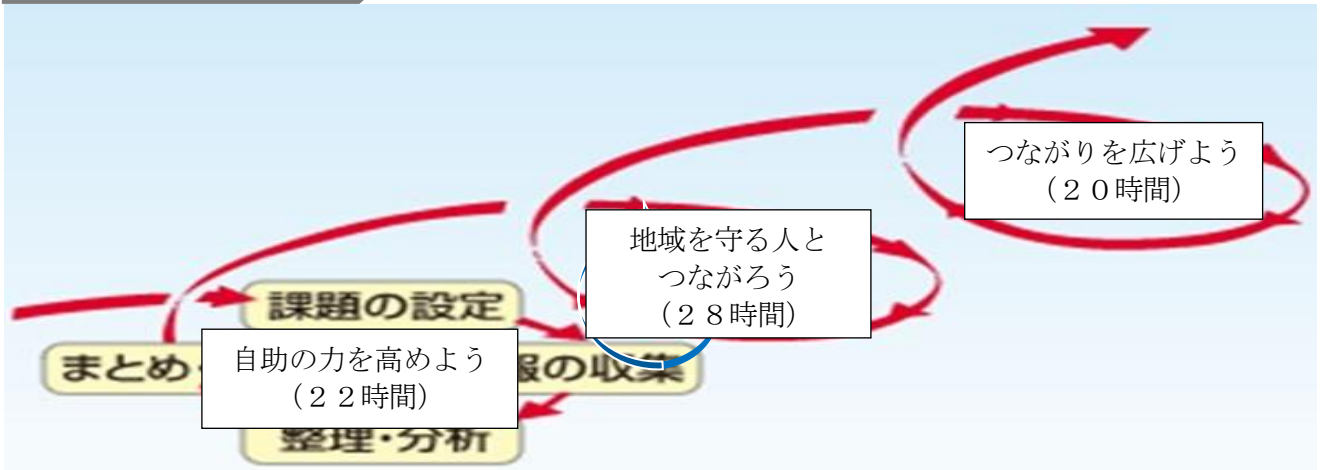
風水害の危険が高まる梅雨前に防災の学習を始められるように、社会科「災害からくらしを守る」の単元を入れ替えて実施した。国語科「要約するとき」「新聞を作ろう」「クラスみんなで決めるには」で学習したことを生かし、相手に伝わる表現の工夫ができるようにしていく。また、前学年の総合的な学習の時間において、〇〇音頭や〇〇の自然についてスライドでまとめたり表現したりした経験を生かし、各教科においてドライブやオクリンプラスを効果的に活用し、資料の共有や記録の蓄積に役立てたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ 地域の防災活動に携わる人たちの思いや願いを知り、防災・減災は地域の人のつながりに支えられていることに気付いている。</p>	<p>○ 自分と地域の防災との関わり方について、自分たちにできることを考えて必要な情報を集め、課題に応じた根拠を基に整理分析し、よりよい表現方法でまとめている。</p>	<p>○ 地域の一員として〇〇の町に愛着と誇りを持ち、〇〇の地域のつながりを深めるために自分ができることを考え、実践しようとしている。</p>
<p>① 防災・減災への取組は、地域の人のつながりによって成り立っていることを理解している。</p> <p>② インタビューやアンケートなどによる調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③ 防災・減災には、地域の人のつながりが重要であることへの理解は、〇〇の防災・減災に関わる人の思いや願いを探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① 防災・減災についての学びを通して、自分たちに何ができるか、何をやる必要があるかを考えて、課題を設定している。</p> <p>② 必要な情報を、対象に応じた方法で収集したり、蓄積したりしている。</p> <p>③ 課題の解決に必要な情報を比較・分類したり、関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて、集めた情報を根拠にして自分の考えをまとめ、相手に伝わるように表現している。</p>	<p>① 探究的な学習を通して、自分にできることを考え、友達の意見を受け入れようとしている。</p> <p>② 課題解決のために、自他のよさを生かしながら友達と協力して取り組もうとしている。</p> <p>③ 〇〇の町のためにできることを考え、地域の一員として進んで防災・減災の活動に取り組もうとしている。</p>
<p>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</p>		
<p>8. 20土砂災害の資料 絆花壇 安佐南区地域振興課          〇〇自治会・町内会 〇〇学区連合防災会 広島市豪雨災害伝承館</p>		

6 指導と評価の計画（全70時間）

探究の過程の構想



	小単元1 自助の力を高めよう	小単元2 地域を守る人とつながろう	小単元3 つながりを広げよう	
課題の設定	昨年度の4年生の活動を引き継ぎ、キッズ防災士55として、「8. 20土砂災害」について調べる。(思①)  (2 h)	小単元1で自助の力を高めてきた自分たちが、次は何に取り組むべきかを考える。(共助の力を高めるためにやりたいことリスト)(思①)  (2 h)	やりたいことリストの中からまだ達成できていない活動を確かめる。(思①)  (2 h)	防災を通して、〇〇に住む人のつながりを広げるために、防災フェスティバルを計画する。(主①)  (2 h)
情報の収集	広島市豪雨災害伝承館へ見学に行き、「8. 20土砂災害」について知る。地域の方から話を聞いたり、町を歩いたりして、「〇〇の8. 20」について情報を集める。(思②)  (8 h)	自主防災会と共助の力を高める活動に取り組む。(知②) ・備蓄倉庫見学 ・防災工作 ・土のう袋体験 ・避難場所体験 ・防災マップ町歩き  (6 h)	自主防災会から避難訓練の実態についての話を聞く。(参加者の推移、過去の内容、自主防災会の思い、参加した人の声、参加していない人の声)(知②)  (2 h)	これまでの学習を振り返り、伝えなければならないことを明確にして、新たに必要情報を集める。(思②)  (4 h)
整理・分析	〇〇の危険な場所や避難所を防災マップでどのように伝えればよいか話し合う。避難リュックにどのようなものを入れればよいか話し合う。(思③、主②)  (8 h)	体験したことを基に、自主防災会とのつながりを「つながろうカード」に整理し、自主防災会とはどんな存在か話し合う。(思③)  (4 h)	地域の避難訓練において、〇〇の人の防災意識を高めるために、自分たちがどのような活動すべきか話し合う。(思③、主②)  (2/4 h)	目的に合った内容になっているかを見直し、改善する。(思③、主②)  (7 h)
まとめ・表現	家族に防災マップと避難リュックについて学習したことを伝える。これまで学習したことを新聞と地図にまとめ、全校児童、地域の人に発表する。(思④)  (4 h)	「つながろうカード」に整理したことを家族に伝える。(思④)  (2 h)	地域の避難訓練で、これまで学習したことや自主防災会について地域の人に発表し、地域でつながる大切さに気付く。(知①)  (6 h)	防災フェスティバルを開催し、1年間の学習の成果を全校や地域の人に発信する。(知③、主③)  (7 h)

## 7 本時の目標

地域の避難訓練の参加者を増やすために、自分たちにできる具体的な取組を、これまでに学習したことを根拠にして話し合おうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度②】

## 8 本時の学習展開

学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
<p>1 本時のめあてを確認し、ゴールイメージを共有する。                      (前時までに、地域の避難訓練において参加者が少ない「理由」と「解決策」をその整理し、その「具体的な方法」をオクリンクプラス提出ボックスに個人で送っておく。※友達の考えは、まだ見られない状態)</p>	<p>○ 本時のゴールイメージを全体で確認することで、主体的に活動できるようにする。</p>

**避難訓練の参加者を増やすために 自分たちにできることを具体的に考えよう**

2 具体的な方法を、班で検討する。

解決策「お土産プレゼント」の具体的な方法で「防災マップ」はどうか。

家に持って帰ってもらって、家族の話し合いに役立てほしいね。

いいね！自主防災会の佐藤さんが「防災マップをただ見るだけじゃなくて、実際に歩いて自分の目で確かめることが大切」って言ってたね。




○チーム力（協働性）

A	自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりして、一緒に考えることができる。さらに、考えをつなげ合って、みんなでよりよい考えにすることができる。
B	自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりして、一緒に考えることができる。

3 全体で交流する。

○班が体験コーナーを作ったらいいって考えていいなと思って、自分たちの班もその考えを採用しました。

班で話し合っ、避難訓練の参加者を増やすための方法をたくさん出すことができました。次は、クラスで話し合っってよりよくしていきたいです。



4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。

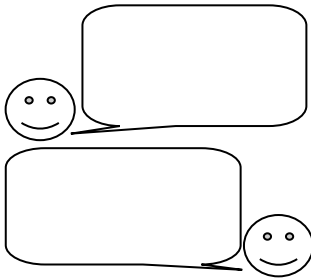
- 友達の考えを参考にできるように、必要に応じて<オクリンクプラス 提出ボックス>を活用してもよいことを伝える。
  - <オクリンクプラス みんなのボード>を活用し、話し合いを可視化できるようにする。
  - 班のみんなが活動を具体的にイメージできるように、検討する際には「つなげる言葉」「引き出す言葉」を活用するように促す。
  - 「つながろうカード」を手元に準備しておくことで、これまでの活動を根拠にして具体策の話し合いができるようにする。
  - 他の班の話し合いを参考にできる「リサーチタイム」を必要に応じて取り入れることで、自分たちの班の考えを練り直せるようにする。
- 本時の見どころ【チーム力】

★友達と考えを交流するよさを感じられるようにするために、考えをつなげたり、反応したりしながら話し合いを進めるように促す。
- 全体交流の時間を設けることで、本時の振り返りに生かせるようにする。
  - 「ふりかえりマスター」を提示することによって、振り返りの視点を意識できるようにする。

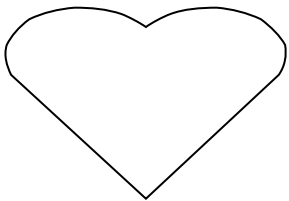
今日は、避難訓練の参加者を増やすための具体的な方法を話し合いました。地域の人にたくさん来てもらうためには、来たくなるような工夫が欠かせないと思いました。お土産がもらえたり、知って得する情報があったりすれば、来たくなると思います。伝承館の方が、「子供の行動で、大人の意識が変わる」と言っていたので、〇〇キッズ防災士55で避難訓練の大切さをアピールして、絶対に避難訓練の参加者を増やしたいです。自主防災会の人と一緒に歩いて作った防災マップや一緒に作った新聞紙スリッパをお土産にしたら、家でも使ってもらえていいと思いました。リサーチタイムで、他の班が体験コーナーを作ったらいいと考えていて、避難リュックを実際に背負ってもらったらいんじゃないかなと思いました。今まで自主防災会の人と共助の力を高めてきたので、たくさんアイデアが浮かびました。避難訓練の参加者を増やそう大作戦を、〇〇キッズ防災士55と自主防災会の人で成功させたいです。

## 〇〇の防災意識を高めよう大作戦！

### 自主防災会の方の思い

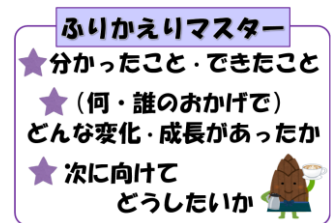
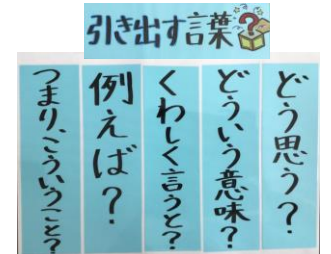
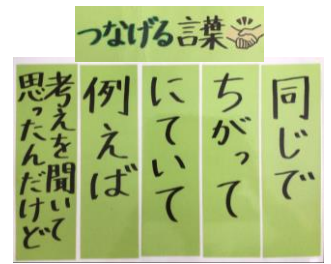


### 自分たち(55)の思い



**めあて** 避難訓練の参加者を増やすために自分たちにできることを具体的に考えよう

行かない理由	解決策	具体的な方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めんどくさいから</li> <li>・楽しくなさそう</li> <li>・興味が無いから</li> <li>・行く必要性を感じないから</li> <li>・場所(〇〇小学校)が遠いから行きにくい</li> <li>・何をするのかわからないから</li> <li>・予定が合わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来た方がいいことがあるようにする</li> <li>・行きたくなる避難訓練の内容にする</li> <li>・避難訓練に来てほしい理由を言う</li> <li>・お土産を準備</li> <li>・避難訓練の内容を伝える</li> <li>・予定が合わない人のために何かする</li> </ul>	



## 9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p><b>【主体的に学習に取り組む態度②】</b> 地域の避難訓練の参加者を増やすために、自分たちにできることを、これまでに学習したことを根拠にして話し合おうとしている。 (ワークシート、発言)</p>	<p>〇 地域の避難訓練の参加者を増やすために、自分たちにできることを、これまでに学習したことを根拠にして話し合おうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人にたくさん来てもらうためには、来たくなるような工夫が欠かせないと思いました。お土産がもらえたり、知って得する情報があったりすれば、来たくなると思います。</li> <li>・ 伝承館の方が、「子供の行動で、大人の意識が変わる」と言っていたので、〇〇キッズ防災士55で避難訓練の大切さをアピールして、絶対に避難訓練の参加者を増やしたいです。</li> <li>・ 自主防災会の人と一緒に歩いて作った防災マップや一緒に作った新聞紙スリッパをお土産にしたら、家でも使ってもらえていいと思いました。</li> <li>・ リサーチタイムで、他の班が体験コーナーを作ったらいいと考えていて、避難リュックを実際に背負ってもらったらいいんじゃないかなと思いました。</li> <li>・ 今まで自主防災会の人と共助の力を高めてきたので、たくさんアイデアが浮かびました。避難訓練の参加者を増やそう大作戦を、55と自主防災会の人で成功させたいです。</li> </ul>

## 10 本時の見どころ

- ・ **【チーム力】** 自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、一緒に考えようとしている姿。
- ・ **【地域連携】** 〇〇の防災意識を高めるために、これまで学習したことを基に、話し合おうとしている姿。